

IB-21 の結果概要 地区名：IB6 伊達 2186 林班わ小班 7月24日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林	テラス	なし	1	2	2010年 4.3	累積 1.2	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	52 /200 m ²	51.1 m ² /ha	42 /200 m ² 食痕:6 12%		23 /200 m ²	2/33 6%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	0 /200 m ²	-/0 -%		10	89%・140・ 40%	1.274・0.023(4.6)・0.005	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm ²)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
アカイタヤ	1	3,678	1	
シナノキ	7	2,278	7	1
アオダモ	10	1,114	7	1
ケヤマハンノキ	2	1,059	2	
ウダイカンバ	1	714		
全体	52	10,221	42	13

※BAは胸高直径断面積の総和



稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
(稚樹なし)		

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (? /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕区数
クマイザサ	20	1.246	89%	140.0	8
トクサ	15	0.023	5%	45.5	0
ノリウツギ	1	0.005	1%	73.0	0
コンロンソウ	3	0.000	0%	26.7	0
オクノカンスゲ	1	0.000	0%	24.0	0

※現存量は被度と高さの積として算出



伊達東部の関内川沿いの落葉広葉樹林に設定している。周辺にはトドマツ人工林があり、隣接している。アカイタヤとシナノキが優占し、アオダモやケヤマハンノキなどが混生する。直近の SPUE は 4.3 と高く、増加傾向にある。下枝がある立木は 42 本あり、まばらに食痕がみられ、一部に樹皮剥ぎも観察される。

稚樹は観察されない。林床はクマイザサが密生し、シカの食痕が見られる。その他ではトクサ、ノリウツギなどが生育するが、少ない。

IB-22 の結果概要 地区名：IB6 伊達 2210 林班/小班 7月25日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林		テラス	なし	1	2	2010年	— 累積 1.6	シカ道・食痕
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	101 /200 m ²	26.4 m ² /ha	67 /200 m ² 食痕:8 30%		68 /200 m ²	2/101 2%(1%)		
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]
	55 /200 m ²	31/55 28%			37	53%・118・56%		0.840・0.111(1.6)・0.069

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm ²)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
オノエヤナギ	9	1,293	2	
イタヤカエデ	8	1,034	8	
オヒョウ	2	979		
ケヤマハンノキ	3	643	2	
ヤマモミジ	14	250	10	
全体	101	5,281	67	5

※BAは胸高直径断面積の総和

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
ツリバナ	44	20
イタヤカエデ	18	10
ヤマモミジ	14	8
アオダモ	10	5
サワシバ	7	5
全体	110	52

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (? /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕区数
クマイザサ	16	0.627	53%	118.4	9
トドマツ	6	0.047	10%	48.2	0
フッキソウ	4	0.045	15%	31.0	0
チシマザサ	2	0.033	2%	183.5	0
サワシバ	4	0.024	5%	51.5	1

※現存量は被度と高さの積として算出



伊達南東部の牛舎川沿いの落葉広葉樹林に設定している。周辺にはトドマツ人工林や農家、河川があり、それぞれ隣接している。オノエヤナギとイタヤカエデが優占し、オヒョウやケヤマハンノキなどが混生する。亜高木層や低木層にはアオダモがややまとまって生える。直近の SPUE のデータはないが、蓄積の SPUE は 1.6 と低くなっている。下枝がある立木は 67 本あり、ときどき食痕がみられ、一部に樹皮剥ぎも観察される。

稚樹はツリバナ、イタヤカエデなど 110 本と多く (1 区当たりでは 55 本)、半数程度に食痕が観察される。林床はクマイザサが密生するが、被度が小さい場所もある。ササにはシカの食痕が見られる。その他ではトドマツ (植栽) や、不嗜好植物のフッキソウなどが生育する。

IB-23 の結果概要 地区名：IB6 伊達 2210 林班へ小班 7月25日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林	尾根	南東	1	2	2010年 3.0	累積 1.9	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	95 /200 m ²	66.4 m ² /ha	68 /200 m ² 食痕:3 5%		51 /200 m ²	3/92 3%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	26 /200 m ²	11/26 21%		26	37%・117・0%	0.601・0.001(0.0)・0.033	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm ²)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
ミズナラ	13	8,963	5	
エゾヤマザクラ	2	1,324	1	
サワシバ	31	1,130	27	
アカイタヤ	4	506	2	
コシアブラ	1	341		
全体	95	13,281	68	4

※BAは胸高直径断面積の総和

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
ツリバナ	42	22
ヤマモミジ	4	4
アオダモ	3	
サワシバ	1	1
ハクウンボク	1	1
ハリギリ	1	
全体	52	28

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (? /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕区数
チシマザサ	19	0.429	37%	117.5	0
クマイザサ	19	0.138	24%	57.4	1
ヒメカンスゲ	13	0.013	7%	19.6	0
ハクウンボク	1	0.005	1%	106.0	1
マイヅルソウ	13	0.005	4%	12.2	0

※現存量は被度と高さの積として算出



伊達南東部の牛舎川沿いの落葉広葉樹林に設定している。周辺にはトドマツ人工林や河川があり、それぞれ隣接している。ミズナラが優占し、エゾヤマザクラやサワシバなどが混生する。亜高木層や低木層にはサワシバがまとまって生える。直近の SPUE は 3.0 と中程度だが、増加傾向である。下枝がある立木は 68 本あり、まばらに食痕がみられ、一部に樹皮剥ぎも観察される。

稚樹はツリバナを中心に 52 本となっていて (1 区当たりでは 26 本)、半数程度に食痕が観察される。林床はチシマザサとクマイザサが混じって密生するが、一部に被度が小さい場所もある。ササにシカの食痕はほとんど見られない。その他ではヒメカンスゲやハクウンボクなどが生育する。

IB-24の結果概要 地区名：IB7 壮瞥 2029 林班た小班 7月26日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林		平坦	なし	2	2	2010年 1.3	累積 1.0	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	12 /200 m ²	34.8 m ² /ha	5 /200 m ² 食痕:1 3%		1 /200 m ²	0/18 0%(0%)		
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	0 /200 m ²	- /0 -%			1	99%・176・10%	1.740・0(0.0)・0.000	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm ²)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
ハルニレ	4	5,188	3	
ダケカンバ	6	4,941		
イタヤカエデ	11	2,371	4	
ハリギリ	1	821		
ミズキ	1	363	1	1
全体	24	13,918	9	1

※BAは胸高直径断面積の総和

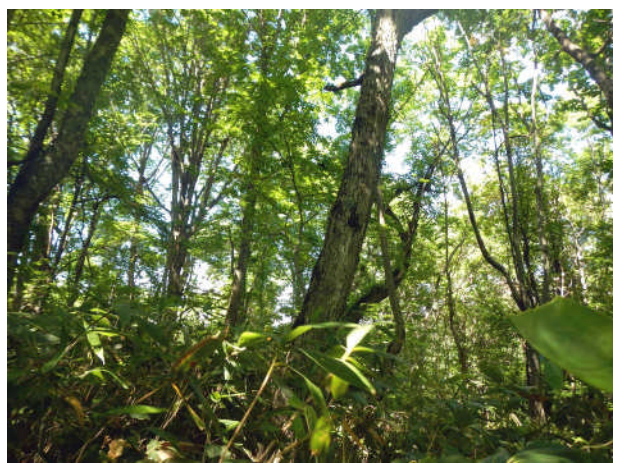
稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
(稚樹なし)		

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (? /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕区数
クマイザサ	20	1.740	99%	176.3	2

※現存量は被度と高さの積として算出



壮瞥中部、洞爺湖の外輪山上の落葉広葉樹二次林に設定している。周辺にはトドマツ人工林があり、隣接している。ハルニレとダケカンバが優占し、イタヤカエデなどが混生する。直近の SPUE は 1.3 と低い。下枝がある立木は 9 本にとどまり (1 区当たりでは 5 本)、まばらに食痕がみられた。

稚樹は観察されない。林床はクマイザサが著しく密生し、わずかにシカの食痕が見られる。その他の植物はほとんど生育しない。

IB-25の結果概要 地区名：IB7 壮警 2144 林班た小班 7月26日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林	緩斜面	北西	1	2	2010年 1.0	累積 1.6	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	79 /200 m ²	42.4 m ² /ha	63 /200 m ² 食痕:3 7%		35 /200 m ²	0/74 0%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	6 /200 m ²	2/6 18%				21	99%・215・0%

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm ²)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
ナナカマド	26	4,896	15	2
アオダモ	11	1,332	11	5
ダケカンバ	1	945		
ミヤマハンノキ	17	395	15	
シナノキ	12	291	12	4
全体	79	8,488	63	14

※BAIは胸高直径断面積の総和

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
ヒロハツリバナ	4	1
ハウチワカエデ	3	
アカイタヤ	1	1
オガラバナ	1	
コシアブラ	1	
ホオノキ	1	
全体	11	2

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (? /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕区数
チシマザサ	20	2.126	99%	214.8	0
シラネワラビ	10	0.019	6%	30.4	0
ツタウルシ	11	0.015	6%	24.0	0
ノリウツギ	4	0.005	2%	29.5	0
ハウチワカエデ	4	0.005	1%	56.8	0

※現存量は被度と高さの積として算出



壮警東部、オロフレ峠下の標高 720m 付近の落葉広葉樹林に設定している。ナナカマドが優占し、アオダモやダケカンバなどが混生する。直近の SPUE は 1.0 と低い。下枝がある立木は 63 本あり、わずかに食痕がみられたが、樹皮剥ぎは見られなかった。

稚樹はヒロハツリバナやハウチワカエデなど 11 本で (1 区当たりでは 6 本)、一部に食痕が観察される。林床は高さ 2m を超すチシマザサが著しく密生し、シカの食痕は見られない。その他には不嗜好植物のシラネワラビ、ツタウルシなどが生育する。

IB-26の結果概要 地区名：IB7 壮瞥 2169 林班よ小班 7月26日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林	緩斜面	南東	2	2	2010年 2.0	累積 1.2	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	32 /200 m ²	26.2 m ² /ha	19 /200 m ² 食痕:4 15%		15 /200 m ²	1/64 2%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	1 /200 m ²	-/1 0%		14	82%・171・45%	1.396・0(0.0)・0.002	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm ²)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
ミズナラ	5	4,744	1	
ハリギリ	1	2,437		
シナノキ	8	1,876	5	
ハウチワカエデ	35	1,207	20	
アオダモ	11	157	7	1
全体	64	10,484	37	1

※BAは胸高直径断面積の総和

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
ヒロハツリバナ	1	
全体	1	

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (? /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕区数
オクヤマザサ	20	1.394	82%	170.6	9
アオダモ	3	0.001	1%	10.7	0
ヒロハツリバナ	3	0.001	1%	23.0	0
ハウチワカエデ	1	0.000	0%	13.0	0
ツタウルシ	3	0.000	0%	21.0	0

※現存量は被度と高さの積として算出



壮瞥東部のパンケ川流域の落葉広葉樹林に設定している。ミズナラが優占し、ハリギリやシナノキなどが混生する。直近の SPUE は 2.0 と低い。下枝がある立木は 37 本あり (1 区当たりでは 19 本)、まばらに食痕がみられ、一部に樹皮剥ぎも観察される。

稚樹はヒロハツリバナの 1 本のみだった。林床は高さ 1.7m 前後のオクヤマザサが密生し、シカの食痕はときどき見られる。その他にはアオダモやヒロハツリバナなどがわずかに生育する。

IB-27の結果概要 地区名：IB8大滝 2084林班ろ小班 7月27日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林	緩斜面	北北西	1	2	2010年 2.0	累積 0.2	糞・足跡・シカ道・姿
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	121 /200 m ²	41.5 m ² /ha	30 /200 m ² 食痕:9 22%		13 /200 m ²	0/32 0%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	0 /200 m ²	-/0 -%		13	92%・143・70%	1.373・0.047(9.4)・0.005	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm ²)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
ダケカンバ	89	7,257	8	1
ナナカマド	31	973	21	29
ミズキ	1	62	1	1
全体	121	8,292	30	31

※BAは胸高直径断面積の総和

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
(稚樹なし)		

(稚樹なし)

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (? /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕区数
クマイザサ	20	1.321	92%	143.2	14
ハンゴンソウ	3	0.046	2%	198.3	0
ハリブキ	11	0.005	1%	38.5	5
ツタウルシ	12	0.001	1%	18.1	1
ウド	1	0.000	0%	35.0	0

※現存量は被度と高さの積として算出



大滝地区東部、ホロホロ峠下の標高 630m 付近の落葉広葉樹林に設定している。ダケカンバが優占し、ナナカマドとミズキが混生する。直近の SPUE は 2.0 と低いが、増加傾向にある。下枝がある立木は 30 本あり、ときどき食痕がみられ、一エゾヤチネズミによる樹皮剥ぎも多く観察される。

稚樹は観察されない。林床はクマイザサが密生するが、高さはあまり高くなく、シカの食痕が見られる。その他には不嗜好植物のハンゴンソウやツタウルシなどが生育する。ハリブキには食痕がややまとまってみられる。

IB-28の結果概要 地区名：IB8大滝 2061林班り小班 7月19日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林		平坦	なし	2	2	2010年 2.0	累積 0.2	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	23 /200 m ²	24.0 m ² /ha	11 /200 m ² 食痕:10 42%		2 /200 m ²	10/54 19%(4%)		
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	0 /200 m ²	—/0 —%			8	92%・132・80%	1.243・0.022(220.0)・0.000	

※稚樹は樹高30cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm ²)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
ヤチダモ	24	5,201	3	
ハルニレ	18	3,012	16	6
オノエヤナギ	1	801	1	
ケヤマハンノキ	2	568	2	
全体	45	9,581	22	6

※BAは胸高直径断面積の総和

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
(稚樹なし)		

(稚樹なし)

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (? /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕区数
クマイザサ	20	1.221	92%	132.4	16
エゾイラクサ	3	0.022	2%	149.0	0
ヤチダモ	9	0.000	0%	7.9	0
エンレイソウsp.	4	0.000	0%	13.8	0
フッキソウ	3	0.000	0%	16.0	0

※現存量は被度と高さの積として算出



大滝地区東部、美笛峠下の標高480m付近の落葉広葉樹林(ヤチダモ人工林)に設定している。ヤチダモとハルニレが優占し、オノエヤナギとケヤマハンノキが混生する。直近のSPUEは2.0と低い。増加傾向にある。下枝がある立木は22本あり(1区当たりでは11本)、高い頻度で食痕がみられ、一部に樹皮剥ぎも観察される。

稚樹は観察されない。林床はクマイザサが密生するが、高さはあまり高くなく、シカの食痕が見られる。その他にはエゾイラクサなどが生育するが少ない。

IB-29の結果概要 地区名：IB8大滝 280林班と小班 7月19日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林		斜面中部	南西	2	2	2010年 1.0	累積 0.4	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	21 /200 m ²	47.1 m ² /ha	8 /200 m ² 食痕:- 0%		4 /200 m ²	2/38 5%(0%)		
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]		
	0 /200 m ²	-/0 -%		2	93%・151・20%	1.404・0(0.0)・0.000		

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm ²)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
ミズナラ	11	12,456	3	1
アカイタヤ	4	1,814		
イタヤカエデ	6	1,344	3	
キハダ	4	1,288		
ハルニレ	3	685	2	
全体	41	18,833	15	2

※BAIは胸高直径断面積の総和

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
(稚樹なし)		

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (? /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕区数
クマイザサ	20	1.404	93%	151.4	4
エゾイタヤ	1	0.000	0%	13.0	0

※現存量は被度と高さの積として算出



大滝地区北西部の落葉広葉樹林に設定している。ミズナラが優占し、アカイタヤやイタヤカエデなどが混生する。直近の SPUE は 1.0 と低い。下枝がある立木は 15 本あり (1 区当たりでは 8 本)、ときどき食痕がみられ、一部に樹皮剥ぎも観察される。

稚樹は観察されない。林床はクマイザサが密生し、シカの食痕がまばらに見られる。その他の植物はほとんど生育しない。

IB-30の結果概要 地区名：IB8大滝 224林班れ小班 7月20日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林		斜面下部	南西	2	2	2010年 3.3	累積 0.5	シカ道
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	23 /200 m ²	33.6 m ² /ha	12 /200 m ² 食痕:- 0%		7 /200 m ²	7/43 16%(0%)		
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	15 /200 m ²	- /15 0%			33	71%・155・0%	1.375・0.018(0.0)・0.430	

※稚樹は樹高30cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm ²)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
ヤチダモ	6	2,748	2	
ハルニレ	3	2,746	3	
オヒョウ	6	2,506	3	1
カラマツ	1	2,017		
キハダ	5	1,158		2
全体	45	13,451	24	7

※BAは胸高直径断面積の総和

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
ヤチダモ	17	
イタヤカエデ	3	
アカイタヤ	2	
ケヤマハンノキ	2	
ハウチワカエデ	2	
ハルニレ	2	
全体	30	

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (? /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕区数
クマイザサ	17	0.927	60%	154.5	0
アキタブキ	11	0.257	25%	103.9	0
ウド	1	0.041	3%	165.0	0
オオイタドリ	1	0.025	2%	165.0	0
ミズナラ	1	0.024	2%	162.0	0

※現存量は被度と高さの積として算出



大滝地区北部の落葉広葉樹の二次林に設定している。ヤチダモとハルニレ、オヒョウが優占する。直近のSPUEは3.1と中程度だが、増加傾向にある。下枝がある立木は24本あり(1区当たりでは12本)、まばらに食痕がみられ、一部に樹皮剥ぎも観察される。

稚樹はヤチダモなど計30本あったが(1区当たりでは15本)、食痕は観察されなかった。林床はクマイザサが密生したが、一部に被度が低い場所もあった。シカの食痕は観察されなかった。その他の植物ではアキタブキが多く観察され、ウドやオオイタドリなど高茎草本類が見られた。

KM-O1 の結果概要 地区名: KS1 金山 121 林班ほ小班 7月18日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林	斜面下部	北東	1	2	2010年 3.1	累積 3.1	糞
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	39 /200 m ²	52.3 m ² /ha	15 /200 m ² 食痕:- 0%		8 /200 m ²	7/37 19%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	0 /200 m ²	- /0 0%		7	77%・96・75%	0.762・0.027(27.0)・0.001	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm ²)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
トドマツ	3	2,880	2	
アカイタヤ	8	2,469		
イタヤカエデ	4	1,526	1	
シナノキ	4	1,110	2	1
ウダイカンバ	1	1,041		
全体	39	10,464	20	5

※BAIは胸高直径断面積の総和



稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
(稚樹なし)		

(稚樹なし)

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (? /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕区数
クマイザサ	20	0.734	77%	95.7	15
フッキソウ	13	0.017	8%	22.4	0
オシダ	1	0.010	2%	64.0	0
イワガラミ	1	0.001	1%	11.0	0
キツリフネ	1	0.000	0%	26.0	0

※現存量は被度と高さの積として算出



金山地区東部の針広混交林に設定している。トドマツとアカイタヤが優占し、イタヤカエデ(エゾイタヤ)やシナノキなどが混生する。直近のSPUEは3.1と中程度である。下枝がある立木は15本あるが(針葉樹等を除く)、食痕は確認されない。一部の立木に樹皮剥ぎが観察される。

稚樹は観察されない。林床はクマイザサが密生し、シカの食痕がときどき見られる。その他には不嗜好植物のフッキソウがややまとまって生育するが、エゾシカの影響ではないと思われる。オシダやイワガラミなども生育する。

KM-02 の結果概要 地区名: KS1 金山 1083 林班の小班 7月18日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林		斜面下部	北東	1	2	2010年 -	累積 2.5	糞・足跡・姿
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	44 /200 m ²	55.3 m ² /ha	13 /200 m ² 食痕:7 13%		16 /200 m ²	2/28 7%(0%)		
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	3 /200 m ²	- /3 0%			15	85%・122・95%	1.080・0.013(0.4)・0.035	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm ²)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
アカエゾマツ	2	3,188		
ハリギリ	2	2,404		
ミズナラ	1	2,193		
ケヤマハンノキ	8	2,021	2	
トドマツ	11	608	10	
全体	44	11,059	23	2

※BAは胸高直径断面積の総和

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
ヤマモミジ	3	
キハダ	1	
ケヤマハンノキ	1	1
全体	5	1

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (? /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕区数
クマイザサ	20	1.032	85%	122.2	19
キハダ	1	0.026	2%	176.0	0
トドマツ	2	0.009	2%	57.0	0
ケヤマハンノキ	1	0.005	1%	96.0	1
フッキソウ	5	0.002	1%	18.6	0

※現存量は被度と高さの積として算出



金山地区中部、金山湖沿岸の針広混交林に設定している。アカエゾマツが優占し、ハリギリやミズナラなどが混生する。直近の SPUE のデータはないが、蓄積は 2.5 と中程度である。調査時に糞塊も確認されている(写真)。下枝がある立木は 13 本あり(トドマツ除く)、まばらに食痕がみられる。一部に樹皮剥ぎも観察される。

稚樹はヤマモミジなど広葉樹 5 本のみで(1 区当たりでは 3 本)、このうち 1 本に食痕が観察されている。林床はクマイザサが密生し、シカの食痕が高頻度で見られる。その他の植物としてはキハダやトドマツなどがある。不嗜好植物のフッキソウもそれほど多くはないが生育する。

KM-03の結果概要 地区名:KS1 金山 1083 林班の小班 7月17日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林		尾根	北東	1	1	2010年 3.7	累積 3.5	シカ道
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	62 /200 m ²	65.2 m ² /ha	35 /200 m ² 食痕:23 35%		30 /200 m ²	1/54 0%(0%)		
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]		
	13 /200 m ²	3/13 23%		28	33%・51・46%	0.235・0.124(10.3)・0.012		

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm ²)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
ミズナラ	3	2,658	1	
シナノキ	4	2,536	2	
エゾヤマザクラ	2	2,035	2	
ハリギリ	2	1,494		
トドマツ	7	901	5	1
全体	62	13,043	43	1

※BAは胸高直径断面積の総和

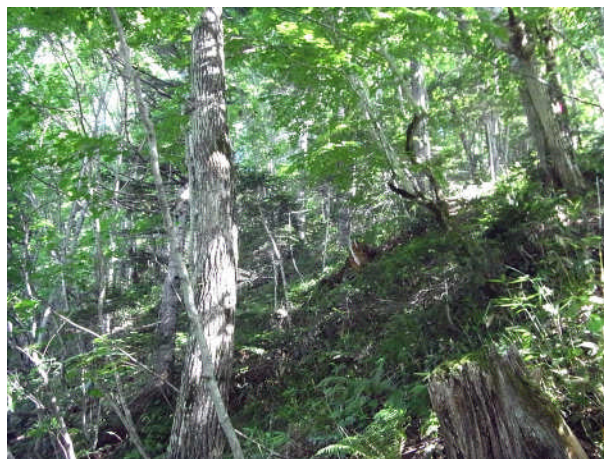
稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
ハウチワカエデ	6	3
シナノキ	3	
エゾヤマザクラ	1	
サワシバ	1	1
ナナカマド	1	
ホオノキ	1	
全体	13	4

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (? /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕区数
クマイザサ	13	0.099	20%	50.7	6
オクノカンスゲ	13	0.042	17%	24.5	1
トドマツ	5	0.032	6%	53.0	0
オシダ	2	0.020	3%	65.5	0
クルマバソウ	5	0.008	4%	21.2	0

※現存量は被度と高さの積として算出



金山地区中部、金山湖の南西側の落葉広葉樹林(針広混交林)に設定している。ミズナラとシナノキが優占し、トドマツやエゾヤマザクラなどが混生する。直近の SPUE は 3.7 と中程度である。下枝がある立木は 35 本あり(針葉樹等を除く)、ときどき食痕がみられる。トドマツ 1 本に樹皮剥ぎ(角とぎ)も観察される。

稚樹はハウチワカエデの 6 本はじめ、広葉樹 13 本が確認され、3 分の 1 程度の割合で食痕が観察されている。林床はクマイザサがややまばらに生育し、シカの食痕がときどき見られる。その他の植物としてはオクノカンスゲやトドマツなどがある。

KM-04 の結果概要 地区名：KS2 占冠 1036 林班お小班 7月28日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林	テラス・湿性林	なし	1	2	2010年 5.0	累積 2.8	糞・足跡・シカ道
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	73 /200 m ²	74.9 m ² /ha	22 /200 m ² 食痕:10 13%		13 /200 m ²	4/59 5%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	1 /200 m ²	1/1 100%		9	92%・164・20%	1.563・0(0.0)・0.067	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm ²)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
ヤチダモ	16	6,601		
トドマツ	3	2,025		1
ダケカンバ	7	1,231	1	
ハルニレ	6	940	5	3
バッコヤナギ	3	882	1	
全体	73	14,977	25	4

※BAは胸高直径断面積の総和

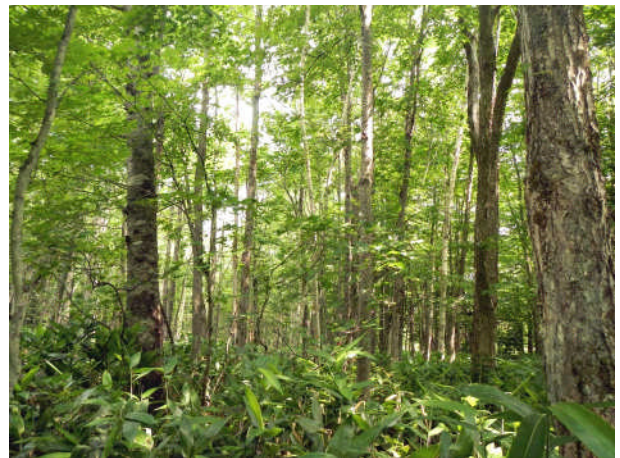
稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
ハウチワカエデ	1	1
全体	1	1

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (? /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕区数
クマイザサ	20	1.496	92%	163.6	4
ミズバショウ	5	0.056	8%	66.8	0
ハウチワカエデ	1	0.011	1%	153.0	1
カサスゲ	4	0.000	0%	34.3	0
フッキソウ	1	0.000	0%	30.0	0

※現存量は被度と高さの積として算出



金山地区西部、夕張岳登山口付近の針広混交林の二次林に設定している。ヤチダモが優占し、トドマツやダケカンバなどが混生する。直近の SPUE は 5.0 と中程度だが、増加傾向にある。下枝がある立木は 22 本あり (針葉樹等を除く)、高頻度で食痕がみられ、一部に樹皮剥ぎも観察される。

稚樹はハウチワカエデの 1 本のみで食痕が観察されている。林床はクマイザサが密生し、シカの食痕がまばらに見られる。その他の植物としてはミズバショウやハウチワカエデなどがある。

KM-05の結果概要 地区名:KS2 占冠 1015 林班に小班 7月28日調査実施

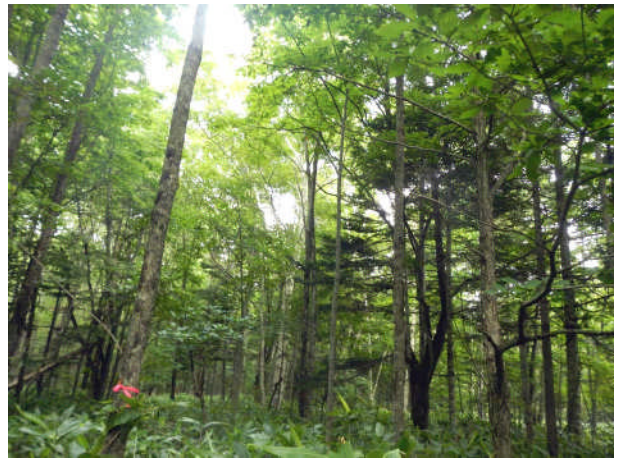
林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林	平坦	なし	1	2	2010年 4.9	累積 3.0	足跡
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	51 /200 m ²	46.4 m ² /ha	24 /200 m ² 食痕:5 11%		15 /200 m ²	5/44 11%(2%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	0 /200 m ²	-/0 -%				5	99%・171・0%

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm ²)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
ダケカンバ	4	2,322		
イタヤカエデ	8	1,688	5	
ウダイカンバ	1	1,403		
ヤチダモ	6	1,010	2	
キハダ	2	817		
全体	51	9,281	24	5

※BAIは胸高直径断面積の総和



稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
(稚樹なし)		

(稚樹なし)

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (? /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕区数
クマイザサ	20	1.689	99%	170.7	0
ツタウルシ	4	0.000	0%	23.5	0
サラシナショウマ	1	0.000	0%	27.0	0
ヤチダモ	1	0.000	0%	7.0	0
フッキソウ	1	0.000	0%	27.0	0

※現存量は被度と高さの積として算出



金山地区西部、トナシベツ川沿いの針広混交林に設定している。ダケカンバが優占し、イタヤカエデやヤチダモなどが混生する。直近の SPUE は 4.9 と中程度だが、増加傾向にある。下枝がある立木は 24 本あり、ときどき食痕がみられ、一部に樹皮剥ぎも観察される。

稚樹は観察されない。林床はクマイザサが密生し、シカの食痕が見られない。その他の植物としては不嗜好植物のツタウルシなどがあるが、いずれも少ない。

KM-06 の結果概要 地区名：KS2 占冠 1134 林班お小班 7月9日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林	緩斜面	南西	1	2	2010年 4.2	累積 3.5	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	76 /200 m ²	29.2 m ² /ha	29 /200 m ² 食痕:1 3%		36 /200 m ²	12/76 16%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	1 /200 m ²	-/1 0%		24	54%・110・0%	0.750・0.037(0.3)・0.118	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm ²)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
ハルニレ	4	1,887	1	
イタヤカエデ	48	1,004	23	5
ケヤマハンノキ	7	952	1	2
ウダイカンバ	2	939		
オノエヤナギ	4	506	1	
全体	76	5,841	29	12

※BAは胸高直径断面積の総和

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
イタヤカエデ	1	
全体	1	

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (? /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕区数
クマイザサ	20	0.595	54%	110.1	0
アキタブキ	10	0.091	10%	92.5	0
ヨツバヒヨドリ	2	0.012	1%	122.5	0
オンダ	2	0.010	2%	50.0	0
トドマツ	1	0.010	1%	100.0	0

※現存量は被度と高さの積として算出



占冠地区北東部の落葉広葉樹林に設定している。ハルニレが優占し、イタヤカエデ (エゾイタヤ) やケヤマハンノキなどが混生する。亜高木層や低木層にもイタヤカエデが多くみられる。直近のSPUEは4.2と高い。下枝がある立木は29本あるが、食痕はわずかである。ただし、イタヤカエデを中心に樹皮剥ぎがややまとまって観察されている。

稚樹はイタヤカエデ1本のみである。林床はクマイザサが優占するが、まばらな場所もある。シカの食痕は観察されていない。その他の植物としては、アキタブキが多いがやはり食痕は確認されていない。

KM-07の結果概要 地区名:KS2 占冠 1111 林班ろ小班 7月17日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林		尾根	北	1	2	2010年 4.9	累積 3.3	糞・シカ道
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	108 /200 m ²	32.5 m ² /ha	69 /200 m ² 食痕:9 28%		72 /200 m ²	5/96 4%(1%)		
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]		
	10 /200 m ²	5/10 25%		38	31%・64・16%	0.414・0.159(1.8)・0.090		

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm ²)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
シナノキ	20	2,535	13	1
ケヤマハンノキ	1	1,231	1	
ハウチワカエデ	36	1,137	29	1
サワシバ	4	393	2	
エゾマツ	8	269	8	1
全体	108	6,494	81	5

※BAは胸高直径断面積の総和

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
シナノキ	9	7
オヒョウ	3	
サワシバ	2	2
ハウチワカエデ	2	1
全体	20	12

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (? /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕区数
クマイザサ	19	0.165	26%	63.6	3
オクノカンスゲ	13	0.044	18%	24.3	0
エゾアジサイ	4	0.032	7%	49.3	1
フッキソウ	10	0.031	13%	23.6	0
シナノキ	3	0.021	3%	82.7	3

※現存量は被度と高さの積として算出



占冠地区北部の落葉広葉樹林に設定している。シナノキが優占し、ハウチワカエデやケヤマハンノキなどが混生する。直近の SPUE は 4.9 と高い。下枝がある立木は 69 本と多く (針葉樹等を除く)、ときどき食痕が確認される。一部の立木には樹皮剥ぎが観察される。

稚樹はシナノキなど 20 本 (1 区当たりでは 10 本) が確認されていて、その 6 割に食痕が見つまっている。林床はクマイザサが優占するが、まばらな場所もある。シカの食痕はわずかに観察されている。その他の植物としては、オクノカンスゲやフッキソウ (不嗜好植物)、エゾアジサイが多い。

KM-08 の結果概要 地区名: KS2 占冠 1217 林班ろ小班 7月9日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林		緩斜面	北東	1	2	2010年 4.9	累積 4.4	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	73 /200 m ²	30.3 m ² /ha	32 /200 m ² 食痕:- 0%		39 /200 m ²	8/68 3%(0%)		
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	13 /200 m ²	- /13 0%			26	28%・84・0%	0.543・0.27(7.3)・0.037	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm ²)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
トドマツ	9	2,517	2	6
ホオノキ	10	1,206	2	
イヌエンジュ	3	871		
オオバボダイジュ	5	491	1	2
ハウチワカエデ	34	470	21	
全体	73	6,057	34	8

※BAは胸高直径断面積の総和

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
ハウチワカエデ	12	1
アカイタヤ	3	3
オオバボダイジュ	3	
イヌエンジュ	2	
サワシバ	2	1
ミズナラ	2	
全体	25	5

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (? /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕区数
クマイザサ	18	0.236	28%	84.3	0
ヤマドリゼンマイ	11	0.180	21%	85.9	0
オシダ	6	0.048	8%	62.5	0
フッキソウ	20	0.033	13%	24.9	0
アキタブキ	2	0.017	2%	85.0	0

※現存量は被度と高さの積として算出



占冠地区東部の針広混交林に設定している。トドマツが優占し、ホオノキやイヌエンジュなどが混生する。直近の SPUE は 4.9 と高い。下枝がある立木は 32 本あるが (トドマツ除く)、食痕は確認されていない。オオバボダイジュには樹皮剥ぎ、トドマツには角とぎがそれぞれ観察される。

稚樹はハウチワカエデなど 25 本 (1 区当たりでは 13 本) が確認されていて、その 2 割に食痕が見ついている。林床はクマイザサが優占するが、ややまばらである。シカの食痕は観察されていない。その他の植物としては、ヤマドリゼンマイやオシダなどのシダが多く、不嗜好植物のフッキソウも多い。

KM-09の結果概要 地区名:KS2 占冠 1254 林班そ小班 7月14日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林	緩斜面	西	1	2	2010年 5.0	累積 4.7	足跡・シカ道
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	36 /200 m ²	57.6 m ² /ha	23 /200 m ² 食痕:- 0%		17 /200 m ²	2/35 6%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	7 /200 m ²	3/7 21%		23	46%・108・0%	0.673・0.131(2.5)・0.052	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm ²)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
カツラ	5	5,955	3	
キハダ	1	1,575	1	
ケヤマハンノキ	2	1,161		
オヒョウ	1	993		
イタヤカエデ	3	583	3	
全体	36	11,513	23	2

※BAは胸高直径断面積の総和

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
シウリザクラ	8	1
アオダモ	4	3
イタヤカエデ	1	
カツラ	1	
全体	14	4

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (? /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕区数
クマイザサ	12	0.490	46%	107.8	0
ジュウモンジシダ	7	0.054	11%	50.0	0
サラシナショウマ	7	0.041	6%	71.0	1
サップロスゲ	5	0.030	8%	37.8	0
クサソテツ	2	0.027	4%	66.5	1

※現存量は被度と高さの積として算出



占冠地区中央部の落葉広葉樹林に設定している。カツラが優占し、キハダやケヤマハンノキなどが混生する。直近の SPUE は 5.0 と高い。下枝がある立木は 23 本あるが、食痕は確認されていない。一部の立木には樹皮剥ぎが観察される。

稚樹はシウリザクラなど 14 本 (1 区当たりでは 7 本) が確認されていて、その約 3 割に食痕が見ついている。林床はクマイザサが優占するが、まばらな場所もある。シカの食痕は観察されていない。その他の植物としては、不嗜好植物のジュウモンジシダやクサソテツがやや多い。

KM-10の結果概要 地区名:KS3 鷲川 1202 林班ほ小班 7月11日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林	平坦	なし	1	1	2010年 13.5	累積 7.2	シカ道
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	57 /200 m ²	32.2 m ² /ha	30 /200 m ² 食痕:7 22%		22 /200 m ²	2/56 4%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]
	20 /200 m ²	—/20 0%					

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm ²)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
シナノキ	14	3,407	7	
ウダイカンバ	2	587		
キタコブシ	7	547	3	
ホオノキ	7	388	3	
オノエヤナギ	2	318	1	
全体	57	6,435	30	2

※BAは胸高直径断面積の総和

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
キタコブシ	5	
シナノキ	3	3
ヤマモミジ	3	1
アサダ	2	
イヌエンジュ	2	
全体	20	4

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (? /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕区数
クマイザサ	20	0.639	67%	96.1	0
サップロスゲ	18	0.025	8%	29.7	0
オシダ	5	0.022	4%	54.0	0
ハイヌガヤ	4	0.010	2%	45.0	0
ヤマドリゼンマイ	2	0.008	1%	67.0	0

※現存量は被度と高さの積として算出



占冠地区西部の落葉広葉樹林に設定している。シナノキが優占し、ウダイカンバやキタコブシなどが混生する。直近の SPUE は 13.5 ときわめて高く、累積も 7 を超える。下枝がある立木は 30 本あり、ときどき食痕が確認される。一部の立木には樹皮剥ぎが観察される。

稚樹はキタコブシなど 20 本が確認されていて、その 2 割に食痕が見つまっている。林床はクマイザサが密生するが、シカの食痕は観察されていない。その他の植物としては、サップロスゲ、オシダなどがやや多く、不嗜好植物のハイヌガヤも少ないが生育する。